

「ママ、これ読んで！」保育園のお迎えを済ませ、大急ぎで夕飯の支度をしていると、次女が絵本を持って来て、読んでとせがみます。保育園から帰って母親に絵本を読んでほしい娘の気持ちは分かるのですが、（早くご飯を作って食べさせて、お風呂に入れて寝かしつけて…）そんな気持ちがあつたり、手を止めて読んでやるのがなかなかできません。

そんなとき、長女を出産して初めての子育てをしている私に母が言ってくれた言葉を思い出します。「家事をしているとき、子どもが絵本を読んでつて言ったら、家事の手を少し止めて、できるだけ読んであげなさい。『あとでね』、ばかりだとだんだん読んでつて言わなくなるから…」

もう40年近く前になりますが、夫婦共働きで忙しかった母は、子育て中、私たちきょうだいに絵本を読んでやる時間がなかったそうです。いえ、時間がなかったわけではなく、それよりもむしろ気持ちのゆとりがなかったのかもしれない。

今、保育所や幼稚園、小学校などで、絵本の読み聞かせが多く行われています。大好きな家族や先生と一緒に絵本の世界に入り込み、わくわくどきどきの思いを共有す

「読み聞かせがつなぐもの」

る時間は、子どもにとってうれしいひとときです。読み聞かせをしてもらっている子どもたちはみんないい顔をしています。その時間は子どもの心にとって、とても大事な時間なのではないでしょうか。長女は小学校高学年になり、家では「絵本を読んで」ということはなくなりましたが、時折「姉ちゃん読んであげようか」と妹に読んでくれるようになりました。自分が絵本を読んでもらった経験が、今度は妹に読んでやることにつながっているのかもしれませんが、忙しい毎日ですが、5分もあれば一冊の絵本を読むことはできます。次女が「絵本読んで！」と言ったときは、「いいよ」と少しだけ家事の手を止め、私の急ぐ心も止めて、娘の気持ちに応えてやる心のゆとりを持ちたいと思っています。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

お問い合わせは

人権啓発広報委員会

（ 880・6569 ） まで